

2 秋田県の主な取り組み

1 主な事業等一覧

少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
※子どもの個性を生かし、子どもの多様性に応える教育活動を展開する。
少人数学級（小1・2年、中1年）、少人数授業（小3～6年、中2・3年）

学習状況調査（H14～）
※各学校の授業改善及び県教育委員会の教育施策の改善に生かす。
・毎年悉皆で調査（対象：小4～中3）*H20からは小4～中2

算数・数学学力向上推進事業（H17～）
※「分かる」「できる」算数・数学授業を実現し、基礎学力の向上を目指す。
・算数・数学学力向上推進班の設置、・単元評価問題の配信

教育専門監の配置（H17～、義務教育課はH18～）
※教科指導に卓越した力を有する教諭を複数の学校で活用する。
・H18（4市町村4名）→H21（14市町村16名）

学校教育の活性化に係るアンケート（H10～19）
※学校教育に関する保護者の声を教育施策及び学校運営の改善に生かす。
・中学校→小学校→高校・特別支援学校の順で抽出調査

科学する心を育む夢プラン事業（H12～20）
※直接体験を通して子どもたちの科学的な見方や考え方を高め、主体的に問題解決する資質や能力を育成する。
・サイエンスキャンプ ・おもしろ理数教室

「英語とコンピュータが使える秋田の子ども」育成事業（H16～）
※中学校卒業までに英検3級程度、高等学校卒業までに英検準2級～2級程度の実践的な英語力を育成する。
・英語コミュニケーション推進班、・英語能力判定テスト
※中学校卒業までにコンピュータやネットワークを学習に活用できる程度、高等学校卒業までに職場や進学先で活用できる程度の技能を育成する。
・情報学習支援事業（H13～H16）

学校・大学パートナーシップ事業（H17～19）
※秋田大学の支援により、学習意欲の喚起と学習機会の拡充を図る。
大学生学習チューター、出前授業、学校まるごとパワーアップモデル校

2 H20年度から実施している主な取り組み

夢創造！！チャレンジ推進事業（H20～）
・大学生学習チューター、・出前授業、・学力向上推進カウンセラー、
・地域学習教室

読解力向上のための指針の作成（H20～）
※「読解力を身に付けた秋田の子ども」の育成を目指しての作成

「秋田わか杉っ子 学びの十か条」（H20～）
※本県の児童生徒の学びのよさを十か条にまとめ、そのアピールと定着を図る。

わか杉思考コンテスト（H20～）
※児童生徒の思考力や洞察力を養い、算数・数学をさらに発展的に学ぼうとする意欲を向上させることを目指し、難問を根気強く考える機会を設ける。

秋田わか杉っ子学び充実事業（H20～）**資料8**
※全国学力・学習状況調査結果を分析し、教育施策や教育活動等の改善の方策を策定するとともに、県内外に広く紹介する。
・検証改善委員会による分析と提言 ・学力向上県民フォーラムの開催

3 H21年度から実施している事業

小学校まなび・ふれあい充実事業 **資料9**
※11の小規模小学校（推進校）に講師を配置し、自由度の高い学校運営や教育課程の編成を可能とする。

先端科学体験事業 **資料10**
※児童生徒の夢や希望を育むとともに、理数系教科の学習意欲の向上を図り、理数系分野への進路についての関心を高める。
・子ども夢体験 ・ドリーム講座

チェンジあきた・教育プロジェクト事業（あきたGP） **資料11**
※小・中学校を単位とした特色ある教育プロジェクトの提案を基に、児童生徒のさらなる飛躍を促す取り組みを推進する。（上限500万円）

4 H22年度から実施している新規事業

学力向上推進事業 **資料12**
※学習状況調査事業、算数・数学学力向上推進事業、理科支援員等派遣事業、特色ある教育活動支援事業（チェンジあきた）を整理、統合。

心の教育

○ふるさと教育 (H5～) *資料1参照

- *ふるさと子どもドリーム支援事業(H11)…1校あたり100万円
- *ふるさと子どもドリームアップ事業(H12～H14)…1校あたり50万円程度
- *ドリームプロジェクト支援事業(H15～H19)…1校(希望校)あたり25万円程度

○「楽しい授業」「分かる授業」の創造

○学校活性化アンケート

経営改善
活性化

○科学する心を育む夢プロジェクト事業

○少人数学習推進事業 *資料3参照

学習意欲向上

○学習状況調査 *資料4参照

授業改善
学力向上

○英語とコンピュータ育成事業
*英語コミュニケーション推進班(H16～H18)

○算数・数学学力向上推進事業 *資料6参照

*単元評価問題の配信(H17～)

*思考コンテスト

地域連携

○ハロースクール・ほっとエリア運動 *資料2参照

*みんなの登校日(H17～H19)

大学連携

○学校・大学パートナーシップ事業

○教育専門監

県教委が牽引役として…

- ・夢創造チャレンジ事業
- ・読解力向上の指針
- ・学びの十か条
- ・高校生パワーアップ事業
- ・わか杉っ子学び充実事業 資料8
- ・まなび・ふれあい充実事業
- ・先端科学体験事業
- ・チェンジあきた

資料9 資料10 資料11

2 主な事業等の内容

(1) 少人数学習推進事業

* 資料3 参照

< 充実のための取り組み >

- ・ 計画書の作成と提出
～実施体制と確立、目標設定～
- ・ 報告書の作成と提出
～実践の成果確認～
- ・ 各教育事務所による加配校計画訪問
～定期的実践チェック、充実のための支援～
- ・ 「チェックポイント」の作成と活用
～自校の実践の充実のためのチェック表、研修の推進～
- ・ 実践事例集作成
～優れた実践の紹介、各校の実践の参考資料～
- ・ 加配措置の改善
～県の裁量から市町村の裁量へ～

(2) 学習状況調査

* 資料4 参照

< 充実のための取り組み >

- ・ 問題づくりの工夫
～評価規準に基づいた問題、設定通過率の設定～
～国の教育課程実施状況調査問題等の類似問題の導入～
～教科の課題解決のための問題の配置～
～活用を意識した問題の配置（実生活との関連や記述式）～
- ・ 結果の活用の充実
～各校での自己採点による結果の把握・活用（7月）～
～自校結果データに基づいた分析と改善方策の策定（9月）～
～報告書の活用（12月）～

(3) 教育専門監の配置

* 資料5 参照

(4) 算数・数学学力向上推進事業

* 資料6 参照

少人数学習推進のための チェックポイント ～ティームティーチング(TT)・少人数指導の充実を目指して～

I 児童生徒の姿をチェック !!

(1 いいえ ←→ 4 はい)

1	児童生徒一人一人がめあてをもって、生き生きと学習に取り組んでいる。	1	2	3	4
2	児童生徒一人一人が自ら、疑問や課題の解決を目指して追究している。	1	2	3	4
3	児童生徒一人一人が学習に充実感や「分かる」手ごたえを感じている。	1	2	3	4

II - ① 授業をチェック !! (TT)

(1 いいえ ←→ 4 はい)

1	学習形態が学習の流れに合っている。 ◇一斉、個別、グループ、コース分け等の選択が、指導や学習の流れとミスマッチになっていませんか？	1	2	3	4
2	互いの役割分担を明確にして指導を行っている。 ◇複数の教師ばかりが動いて、児童生徒の学習活動が活発に行われない授業になっていませんか？ ◇互いの役割分担が不明確で、一体感のない授業になっていませんか？ ◇二人で指導していても、実質一人で指導している場合と大差のない授業になっていませんか？ ◇T2がうしろで眺めているだけになっていませんか？ ◇個別指導中心で、工夫のない授業になっていませんか？ ◇T2が特定の児童生徒につきっきりになっているだけの授業になっていませんか？	1	2	3	4
3	児童生徒の実態に応じて授業が行われている。 ◇児童生徒の状況に柔軟に対処できない授業になっていませんか？	1	2	3	4
4	机間指導は明確な視点をもって行っている。 ◇机間指導の視点が不明確で、行き当たりばったりの指導になっていませんか？	1	2	3	4

II - ② 授業をチェック !! (少人数指導)

(1 いいえ ←→ 4 はい)

1	学習形態が学習の流れに合っている。 ◇一斉、個別、グループ、コース分け等の選択が、指導や学習の流れとミスマッチになっていませんか？	1	2	3	4
2	少人数のよさを生かした授業が行われている。 ◇集団を小分けにしたが、教師主導の一斉授業が中心で、一人一人にきめ細かな配慮が見られない授業になっていませんか？ ◇集団を小分けにしての個別指導が中心で、工夫のない授業になっていませんか？	1	2	3	4
3	どのコースでも充実した学習となるように、打合せや連携ができています。 ◇集団を小分けにただで、同じことをやっている授業になっていませんか？ ◇教師間の連携が十分でなく、コース間で学習の充実度にばらつきが見られる授業になっていませんか？	1	2	3	4
4	児童生徒の実態や指導のねらいに応じて指導計画を立てている。 ◇集団を小分けにしただけで、分けたねらいが不明確になっていませんか？ ◇児童生徒の状況に対応しえず、当初の形態を柔軟に変えられない授業になっていませんか？	1	2	3	4

III 学校の取り組みをチェック !!

(1 いいえ ←→ 4 はい)

1	目指す児童生徒像をもち、明確な目的の下で少人数学習を実施している。	1	2	3	4
2	児童生徒の希望や学習状況を適切に把握し、少人数学習を実施している。	1	2	3	4
3	必要に応じて少人数学習を実施できる校内体制が整っている。	1	2	3	4
4	効果的な実践について、学年や教科の枠を超えて研修を行っている。	1	2	3	4
5	継続的に実施状況を評価し、授業改善に生かしている。	1	2	3	4